

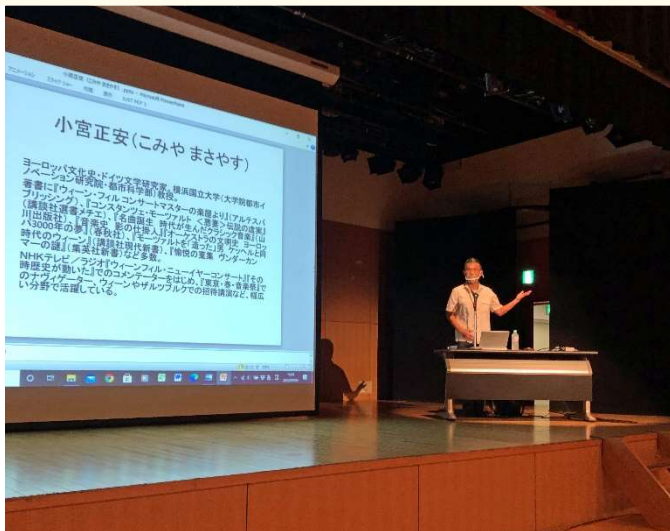
「合唱幻想曲」から「第九」への道 小宮正安先生「ベートーベン・レクチャー」

埼玉第九合唱団 団長 浅子 元 ASAKO Hajime
埼玉県合唱連盟 理事

埼玉第九合唱団はコロナ対策のため2月末から練習を休止しており、今年いっぱい活動を休止することが決まっています。

歌うことは控えても聴くことは良いだろう、ということと、団員のモチベーション維持のため講演会を開催しました。講師にお招きしたのはヨーロッパ文化史・ドイツ文学研究家で横浜国立大学教授の小宮正安先生です。

ベートーベンにおける器楽と声楽の融合についてたっぷりとお話を聴きました。当団で来年7月に予定されている「合唱幻想曲」と「第九」のカップリング演奏会に向けて、コロナで声が満足に出せない今だからこそ学んでおこう！



1800年代に入るとウィーンの城壁の外に数々の劇場が出来てきた。有名なアン・デア・ウィーン劇場もその一つ。ここでは劇場の空いている時、にわか音楽家がこぞって演奏会を催していたそう(これをアカデミーと呼んでいた)。

ウィーン宮廷軍事局勤務で文学愛好家(半分兼業で多趣味の輩は当時多かった)でもあったクリストフ・クフナー作の「合唱幻想曲」のテキスト、その結尾の詩「愛と力が結び合う時、人間には神の恩寵が報われる」にこの曲の詩の神髄が見られる。

シラー「歓喜に寄す」と出会う

「声楽は器楽より優位」という構図は教会音楽やオペラをとっても、当時としては当たり前だった。声楽(声)は神からの言葉として考えられていて、器楽は(手)を使うことにより不

浄なものとしての位置づけで、歌の伴奏を行う役割に過ぎなかった。その圧倒的伝統をひっくり返した作曲家の代表が、ベートーベンだった。

フランス革命後に、時の政府が盛んに開いたのが広場に民衆を集めての集会。その最後には全員の合唱によって昂る気持ちを表した。その流れを見事につかんだベートーベン、器楽作品に声楽を融合させ最後に高らかに歌い上げる手法を登場させた。

1785年版の「歓喜に寄す」を著したころのフリードリヒ・シラーは、啓蒙思想を飛び抜けた危険思想の持ち主で当局から指名手配として追われる身に。「世のしきたりが剣で分断したものを。乞食は王侯の兄弟となる」という過激な一文は1808年には、「世のしきたりが厳しく隔てていたものを。全ての人々は兄弟となる」と兄弟愛をうたえる内容に変容した。

「第九」の初演はとてつもなく難儀な大演奏会だった。交響曲2曲、ミサ・ソレムニス、献堂式、合唱幻想曲、第九を5、6時間かけて寒い劇場でやったというのだから、やる方も聴く方もたまらない。当時のオーケストラはほとんど初見で演奏していたらしく難度の高いベートーベンの曲はもとより無理があった。オーケストラが乱れたときのためにピアノが用意され、危なくなったらピアノ演奏で軌道修正を図ったとか。もっと凄いのはピアノの壁面をたたいて拍を修正していたとも…。

ベートーベンの曲に向き合ってもまもなく50年。そんな私たちはベートーベンをとりまく歴史やヨーロッパ文化史から、もっと勉強を深めていかなければいけないと感じました。

□小宮正安(こみや まさやす) プロフィール

ヨーロッパ文化史・ドイツ文学研究家。横浜国立大学(大学院都市イノベーション研究院・都市科学部)教授。著書に『ウィーン・フィル コンサートマスターの楽屋より』、『コンスタンツェ・モーツァルト<悪妻>伝説の虚実』、『名曲誕生 時代が生んだクラシック音楽』、『音楽史 影の仕掛人』、『オーケストラの文明史 ヨーロッパ3000年の夢』、『モーツァルトを「造った」男 ケッヘルと同時代のウィーン』、『愉悦の蒐集 ヴンダーカンマーの謎』など多数。

NHKテレビ『ウィーンフィル・ニューイヤーコンサート』、『その時歴史が動いた』でのコメンテーターをはじめ、『東京・春・音楽祭』でのナビゲーター、ウィーンやザルツブルクでの招待講演など、幅広い分野で活躍している。



【埼玉第九合唱団：ホームページより】

1973年に埼玉県民の手でベートーベンの「第九」を演奏することを目的に結成されました。この間、夏期は合唱団主催により古典から現代までの様々な合唱曲に取り組み、年末にはオーケストラとの共催で「第九」の演奏会を開いてきました。同一の合唱団における「第九」の演奏記録としては全国でもめずらしいものになっています。

近年は常時160名以上の団員を擁し、県内最大の合唱団として、各種音楽祭、イベントにも参加。1994年、オーストラリアのブリスベンで開催されたワラナ祭に県の文化使節として出演。1998年、創立25周年記念として、本県ゆかりの宮澤章二、鈴木憲夫両氏の作詞、作曲による委嘱曲、オーケストラと混声合唱のためのカンタータ「さいたまさちあり」を演奏。

そして2002年FIFAワールドカップ日韓共同開催記念公演として、2000年11月には韓国のソウル市世宗文化会館において、2001年12月には大宮ソニックシティにて、ソウル・ナショナル・シンフォニー・オーケストラとの共演による演奏会を開催し、好評を博しました。この双方での公演行事に対しては、埼玉県知事より感謝状をいただきました。

毎月6～7回の定期練習と年数回の日曜練習を行い、新たなチャレンジを続けながらこれからも質の高い合唱音楽を目指していきます。

【編集部より】

埼玉第九合唱団は、今年12月の「第九演奏会」中止を7月6日付で発表しました。

10月から練習を開始し、12月の定演に臨む計画でしたが、日本フィルハーモニーオーケストラ及び会場の大宮ソニックシティから以下に示すような見解が出されたことを受け、今年一杯の活動休止を決定しています。

◇オーケストラとホールの方針◇

▼日本フィルの見解

- ・演奏会は演目の見直し、時間短縮、ステージ・客席は半分の人数などの対策を立て準備している。
- ・第九演奏のような大規模公演は、客席、ステージとも密の状態になり開催が困難。
- ・公演を無理に行ったことで感染者を出したオランダのアムステルダム・コンサートヘボアの例をみると、合唱の演奏会は危険であるし慎重にならざるを得ない(合唱団員130名中102名が感染)。
- ・第九は正直ドル箱であるが、今年の開催はかなりハードルが高い。出演者、お客様の安全を優先したい。

▼ソニックシティホールの見解

- ・今後徐々に増える可能性はあるが、現在は客席672席の収容数(約30%)で公演を行っている(通常2505席)。
- ・9月、11月、1月の販売済「日本フィルさいたま定期」チケットの払い戻しを行う。
- ・公共施設として何としてもお客様の健康が心配。感染のリスクは常にあり、劇場クラスターを出すことは絶対に避けたい。

大所帯の合唱団運営は厳しい状況にあります。まして「第九」のようにオーケストラとの共演となると無観客としたところで、ふつうのホールではステージに乗り切れません。

当分の間、演奏は断念するしかないのでしょうか。練習すらままならない状況で団員のモチベーションをどう維持するか運営陣の苦勞が忍ばれます。幸いにも、この団の運営レベルは高いので、新たな活路を見出すものと思います。

『おんがく広場』発行元クッキー会の一人、**新祖章**さんは長い間埼玉第九合唱団の団長を務めていました。また、同じくクッキー会の**南めぐみ**さん、**星野英明**さん、**加藤良一**の三人も元埼玉第九に所属していました。(編集部)